



(1) 緑友ハーモニー26年度運営体制

幹事長: 小林 力 (5回生)

幹事楽譜係: 岡真理子 (14回生)

幹事会計係: 清水あつ子 (14回生)1

パートリーダー: 矢島多恵子 (ソプラノ)、佐藤睦子 (アルト)

河野通久 (テナー)、上田昌紀 (バス)

(2) 今後の練習日程

1月16日 (金)	13:00 ~ 15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
1月16日 (金)	15:30 ~ 16:30	ミニ総会: 中央町社会教育館・102号研修室
1月23日 (金)	10:00 ~ 12:00	緑ヶ丘文化会館・レクホール (本館3階)
2月20日 (金)	13:00 ~ 15:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室 (別館2階)
2月20日 (金)	15:30 ~ 16:30	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室 (別館2階)
2月27日 (金)	10:00 ~ 12:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室 (別館2階)

3月6日(金)	10:00～12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
3月13日(金)	13:00～15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
4月17日(金)	13:00～15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
4月24日(金)	10:00～12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
5月8日(金)	10:00～12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
5月22日(金)	13:00～15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
6月12日(金)	10:00～12:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室(別館2階)
6月19日(金)	13:00～15:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室(別館2階)
7月10日(金)	10:00～12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
7月24日(金)	13:00～15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
8月14日(金)	お盆休み	
8月28日(金)	13:00～15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
9月11日(金)		
9月18日(金)		
10月9日(金)		
10月16日(金)		
10月30日(金)		
11月6日(金)		
11月13日(金)		
11月20日(金)		
11月27日(金)	午後	コンサート 小山台会館3階大ホール
12月4日(金)	11:30～14:00	コンサート打ち上げ/クリスマス会 奥沢 NaKaMa

註1: 表中下線の日は奇数週金曜日です。ご注意ください。

註2: 6月は第3金曜日が第4金曜に返りました。

註3: 今年もコンサートを小山台会館で開催します。

註4: 10月、11月はコンサートに備えて月3回の練習になります。

註5: 今年のクリスマス会はコンサートの打ち上げを兼ねて12月第1金曜日に奥沢のイタリアン・レストラン NaKaMa で開催します。

(3) コンサートとクリスマス会

今年もコンサートを開催します。日時は11月27日午後、会場は昨年ミニコンサートを開催した小山台会館3階大ホールです。曲目の中ではヴィヴァルディの見た日本の四季が目玉で、ヴァイオリン奏者も加わってくださるそうです。

クリスマス会はコンサートの打ち上げを兼ねて、通常より1週間早めて12月の第1金曜日4日に奥沢のイタリアン・レストラン NaKaMa で開催します。

(4) 5月号のひまつぶし

大原れいこメモリアル特別ギャラリー・コンサート ジュピター・カルテット・ジャパン & 今井信子 小林 力

4月19日に表題のコンサートを大原美術館へ聴きに行った。これに先立ち、4月5日にジュピター・カルテットの若き時代のドキュメンタリーを映画化した「カルテットという名の青春」を観に行った。ジュピター・カルテットは桐朋学園大学在学中の2004年にヴァイオリンの植村太郎、佐橋(さきつ)マドカ、ヴィオラの原麻理子とチェロの宮田大の4人が結成したカルテットである。それぞれ音大を首席で卒業して、日本最高の若手カルテットと呼ばれるまでに成長し、カルテットの最難関のミュンヘン国際コンクールに挑戦。しかし結果は一次予選での落選だった。人生ではじめて味わう大きな挫折。この日から“世界”に通用する音を求めて、4人の旅がはじまる。彼らは揃ってジュネーブ高等音楽院に留学、そこで今井信子、ガボール・タカーチ=ナジの薫陶を受け揃って首席で卒業。これらの過程をテレビマン・ユニオンのディレクター 大原れいこがドキュメンタリーとして企画・プロデュース。ジュピター・カルテットを2007年から2011年、1371日にわたって長期密着撮影、ひたむきに夢へと向かう4人の若き日の心の機微を丁寧に描いた。それが映画化されたのが「カルテットという名の青春」である。いい映画だった。感動した。

そして今回の 大原れいこメモリアル特別ギャラリーコンサートとして2011年に解散した ジュピター・カルテットが実に15年ぶりに再び集まって彼らの成熟した姿を披露するという企画だ。ちなみに、大原れいこは私の親友で大

原美術館の名誉館長をしている 大原謙一郎 の姉君である。生前は私も親しくさせていただいていた。

今井信子 は桐朋学園大学を卒業して、私と大原謙一郎が Yale 大学大学院に留学中の1965年同大学ミュージック・スクールの大学院へ留学してきた。当時は日本人留学生の少なかった時代で、いきおい親しくお付き合いをした。今井信子は翌年1966年には ジュリアード音楽院へ移籍、1967年から世界的に有名なヴィオラ奏者として83歳の今日に至るまで精力的に演奏活動、後進の指導に従事している。ジュピター・カルテットの 原麻理子は今井信子の弟子でもある。さらには、ジュピター・カルテットを見出したのも今井信子の功績だ。ちなみに、ベルリン・フィルの首席ヴィオラ奏者の清水直子も桐朋学園大学卒業後、留学先のドイツで今井信子に師事している。

余談だが、チェロの 宮田大 は2020年1月25日に ピアノの田村響 とくらしきギャラリーコンサート でベートーヴェンのチェロ・ソナタを演奏している。演奏会後の会食で 宮田大 とは親しくおしゃべりをする機会を得た。これについては縁友ハーモニー便り 2020年の ひまつぶし に書いている。この年はちょうどコロナ禍のはじまりで、その後ギャラリーコンサートは中断されたままである。したがって、今回の 大原れいこメモリアル特別ギャラリーコンサートは6年ぶりということになる。ギャラリーコンサートは大原美術館2階の一番大きな展示室に 舞台と椅子200脚ほどをあしらって演奏会場とする。観客はもちろん、演奏者も壁に掲げられた名画に囲まれ、至福の音楽体験となる。

さて、コンサートの曲目は、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第12番 変ホ長調 作品127、ブラームスの弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 作品111 (第2ヴィオラ: 今井信子) である。

ベートーヴェンは弦楽四重奏曲を16曲書いているが、この第12番は、第11番のあと14年のブランクを経て作曲された一連の晩年の四重奏曲の最初を飾る。第1楽章の第1主題とト短調の第2主題が美しい。第2、第3、第4楽章と晩年のベートーヴェンの精神的深さを示す傑作である。

弦楽五重奏曲第2番はブラームスが1890年57歳の時に作曲された。老いや孤独を感じるようになったブラームスの心境の変化を反映しており、深い厭世観に満たされている。実際、ブラームスはこの作品で作曲をやめることを考えて、遺書を作成したくらいである。全曲を通じて、殊に第2楽章ニ短調アダージョはブラームスの哀愁漂よう晩年の傑作である。このあとブラームス

はいくつかのクラリネット曲 (三重奏、五重奏そして最後の曲となった2つのソナタ) などの名曲を書き上げ、1897年68歳間近で生涯を閉じた。

ジュピター・カルテットと今井信子の演奏は実に見事だった。モディリアニのジャンヌ・エビュテルヌの肖像、ピカソの鳥籠などの名画に囲まれて聴く弦楽の調べに、鳥肌が立つほどの感動を覚えた。アンコールのAve Verum Corpus が華を添えた。

コンサートのあとで、演奏者と大原謙一郎の友人たちで打ち上げ会食があり、再び宮田大や他のジュピターメンバーと親しく語り合う機会にも恵まれた。ジュピターの面々も15年ぶりの再演奏とあって、興奮冷めやらぬ様子で、なんと夜中の12時までお酒を酌み交わしていた。